

## 湘南国際村活性化検討委員会（第7回）議事録

- 1 日 時 平成30年10月30日（火） 10:00～12:20
- 2 場 所 湘南国際村センター 1階 ルミエール
- 3 出席者 委員10名、オブザーバー1名（協働参加型めぐりの森づくり推進会議会長）
- 4 発言要旨

委 員 長： ただ今から「湘南国際村活性化検討委員会」第7回を開催する。

### 議題1「アンケート結果について」

委 員 長： 前回ご意見を伺っている内容ではあるが、如何か。

委 員 員： アンケートにもあったが、今、子安にカフェ、ドッグランができています。ドッグランが2か所、カフェが合計で3か所と集積している。声をかけてみたら、「車の往来がだいぶ多くなったので、商売として成り立つと思いで店した」とのこと。その手前には湘南OVAという宿泊施設があり、夏だと予約が取れないほど活況だという。土日にはモーニングサービスもするなど、この周辺には人気のある商業施設が増えている。地の利はよいので、湘南国際村センターもまだ工夫の余地があると思う。

ただ、周りの意見ばかりでなく、センターの職員そのものが現状をどう思っているのか、どうしたらよいと思っているのかを聞きたい。そうしないと、せっかくの取組が実を結ばないことになる。

委 員 長： 施設ができて人が集まり始めているので、何らかの施策をとることによって人が集まることに期待してもよい状況にある、という現状認識をいただいた。

委 員 員： 3ページの間3「国際交流機能の強化」の最初に「国際会議などを含む国際交流イベントの開催、運営に住民のボランティア参加」というご意見がある。以前は、村内機関と住民の方々との交流という意味では、こういうことがどの程度実施されていたのか。

事 務 局： 国際交流イベントではないかもしれないが、湘南国際村フェスティバルでは、普段から国際交流に取り組んでいる「かながわ国際交流財団」、K I Fがブースを出し、国際交流に関する取組を展示し、来場者と交流を図っている。

また、情報学の学会がこの湘南国際村センターで常設の国際会議を開催しているが、内容が専門的であることから、普段の成果を住民の皆様、県民の皆様に還元するため、年に一度、講演会を開催している。こうした取組を通じて、世界の様々な動きに触れる機会を提供している。お手元に、実際に11月3日に開催される予定の講演会のチラシを配布させていただいた。

この方は、国際交流イベントをもっと開催する余地があるということで、ご提案いただいたのだと思う。

委員長： この問いは、「問2を進めるために、どのような取組が必要か」というもの。事務局で、国際的な学会をセンターで開いた主催者の方を調べて、住民のボランティア参加のようなものがあったのかどうか、調べていただければ。

委員： アンケートの集計結果を見ると、このセンターを改善することで、よくなるのが非常に多い。ATMがあったにもかかわらず外されたということだが、普通ならその時点で住民と話し合う。このセンターの機能から考えて、村全体の中の位置付け、立場もあると思う。アスレチックなど、新しいことをやるのではなく、既存の建物とインフラがある中で、サービスを変えただけでできる話なのに、なぜ今のようになってしまったのか。飲食店も素晴らしいものがある。建物がよくても、料理がよくなければ人は来ない。そうしたところをすり合わせれば、相当な部分が解決できる。

また、アンケートにもあるように、「税金を払っているのだから何とかしてほしい」というのも、まっとうな話。このセンターも税金が投与されている。なぜ、今まで意見のすり合わせができなかったのか、というところが聞きたい。

事務局： ATMは、求める声が多かったので設置したが、実際の利用が想定よりも少なくて採算が合わず、そのまま置き続けるにはコストがかかるため維持できなかったのだと思う。

委員： 今はネットバンキングがあるので、そちらに移行することも考えられる。サービスが駄目であれば代替案を民間なら考えるが、そうしたことをしているのかどうか。施設にはプールもあるし、ジムも作ればすぐにできる。これだけ要望があるなら、会員が入れるようにすればよい。商売人であれば、そうしたことを考える。ここは立派な施設があるのに活用されておらず、住民からこれだけ利用されていないのは珍しいと思う。

委員長： 前回も同じご意見をいただいているが、非常に重要なものであり、議題3の後にこのアンケートに戻るのだと思う。スーパーがあり、撤退したが、住民の方々はスーパーを望んでいる。このギャップは何なのか、という深堀りをして、具体策の改善に結びつける。議題3でアンケートも念頭に置きながら、もう一度議論していただけるとよいと思う。

委員： 15 ページに、センターの「プールの使用」を望む声がかかり出ている。以前、私の友人が近くの研修センターに来て、プールが使えないか尋ねたところ、剣もほろろに断られた。これだけプールの利用を求める声がある中で、センターでそうした検討をしたことがあるのかどうか疑問。

また、給水塔にせっかくよい内容のレストランがあり、景色もよいので、葉山に来たら寄ろうと、楽しみに来てみたら、閉まっていた。ネット上では、定休日などではないのに閉店していた。仕方がないから近くで食べようとしても、イタリアンのイメージで来ていたため、他のものを食べてもおいしく感じない。いつ休みで、いつ営業しているのか、それが全く分からない。ネット上にも出てこない。電話をかけても出ない。あるいは、昼に電話をしたら出たの

で、行ってみたら夜は閉まっていた。せっかく客が楽しみにしていても、拒否してしまっている感じ。プールも同じように、皆様が使いたいと言っているのに、なぜそのあたりの検討ができないのか。おそらく、ここにこれだけ書いているということは、センターに「プールが使えないか？」とそれなりにアプローチしていると思う。しかし、きちんと検討していないのがこういうところに出ているのでは、と思う。

委員：先ほどのATMは、横浜銀行のものがあつた。自治会の町会費を横浜銀行の口座から天引きされるようにして集めているが、「横浜銀行と取引がないから」と、口座を作ってくれない方が結構いらっしゃる。それがセブン銀行やゆうちょだったら継続していたのでは、と思う。

また、レストランは業者が変わつたが、そこで味も変わったという意見があつた。ラウンジは値上げしたが、「この値段では」という感じであり、そういうところが、ニーズと合わなくなっているのではないか。

委員：ATMを導入し、撤退した経緯を詳しくは把握していないが、おそらく採算の問題であろうと推測される。現時点でのサービスとしては、一定量のお取引があるお客様には「ゼロ手数料」というものがある。これは商品サービスをご案内する、ということではなく、ファミリーマートのコンビニのATMは一定量を満たせば月3回まで手数料が無料をご利用いただける、というもの。住民の皆様にも、週に1回、10日に1回のレベルであれば、ご不便をかけずにご提供ができる。

再度設置ができるかについては、今のキャッシュレスの流れの中で、改めてこの地域に置くのか、社内で議論していく必要がある。

委員長：具体的なこれからのサービスについては、実施者と住民で実際に使われている方のニーズとのすり合わせが必要になってくるが、本日はこの程度とさせていただきます。

事務局にお願いしたいが、センターの方のご意見を聞く場を作っていたいくことは可能か。

事務局：もちろん、可能。

委員長：次回は無理でも、次々回あたりの最終案のところ、方向性の中に「センターの更なる活用」が盛り込まれる中で、このアンケートとの対応があつた方がよいかもしれない。ご検討いただきたい。

委員：機能としてリクエストの多かつたものに「医療施設が欲しい」という意見がある。実際問題として、この辺りにお住いの方々が使う医療機関は、どのくらい距離が離れたところにあるのか。そこがどのくらい混んでいるのか、といった状況が分かるか。要は、本当にここに医療施設があつた方がよいのか。お住いの方の人数を考えると、病院を置くのはそれほど現実的ではない。では、今ある施設をどのように使えるようにするのかという議論をしなければならぬ。住民の方々が高齢化していることを考えると、医療の部分はケアしないと

いけないと思うが、その状況が分かれば。

委員長： 前回アンケートだけではなく、その前の段階で、今ある施設の中で使える医療サービスがあるが、あまり使われていないという話はあるが、それ以上に踏み込んだもの、ということか。

委員： 病院に行くのも、「風邪をひいた」あるいは生活習慣病で通うのか、など様々な目的があると思う。それによって行きたい病院の距離感や緊急度も変わってくる。そのあたりの需要、ニーズがどうなっているのかと考えた。本当にそうしたものが欲しいのか、あるいは最近では遠隔診療が一部では可能になってきているが、そうしたもので済むのか。判断材料が欲しい。

ATMについても、これからはキャッシュレスの方向に進むのは分かっているんで、思い切って新しい仕組みを取り入れて、ここでは違うやり方でニーズを満足させるという捉え方を、もう少し積極的にしていった方がよいのでは、という思いもある。新しい技術を使えばカバーできるのか。実際の悩みについて、もう少し突っ込んでみないと分からないと思った。

委員長： 今のご意見も、アンケート結果に基づいてどのように深掘りするかというものだと思う。今、ここでの回答は難しいと思うので、こういったご意見があったということで記録に残していただきたい。この委員会の後でも、いずれそこに踏み込まざるを得ないと思う。

## 議題2「BC地区での活動等について」

（資料2を事務局から説明した後、オブザーバーとして参加した「協働参加型めぐりの森づくり推進会議」会長から、活動の現状等について説明）

オブザーバー： 本日はお招きいただき、感謝する。事務局から説明のあった「協働参加型めぐりの森づくり推進会議」の代表、会長を務めている。湘南国際村のBC地区、名前を「めぐりの森」として、そこを保全、再生と、利用、活用していこうと取り組んでいる。BC地区には、大楠山の近く、前田川の源流域や子安の里があるので、これは現在の手つかずのまま保全しようとしており、それ以外のところを我々で利用、活用していこう、再生していこうと活動している。こうした活動として、来月にも植樹祭がある。これは、横国大の宮脇先生の提唱ですと行っており、次回で15回目になる。最近、植樹だけでなく、健全な森をつくるためには育樹が大事だということで、育樹活動、育樹祭に取り組んでいる。こちらは、混植・密植グループが中心となって取り組んでいる。

もう一つは、地域の方々、子どもたちと一緒にやろうと、自然ふれあい楽校という活動がある。年2回、サマースクールと来月のオータムフェスタがあり、参加者を募集し、「BC地区はこんな自然環境のよい所だ」「ここで遊んで、自然を体験しよう」という、ざっくばらんな活動を続けている。

この他に、公募をして選ばれた事業がある。これをまとめるのは県の協議会になるが、森と畑の学校ということで、地元葉山の石井農園の方が中心となっ

て提案され、活動しているもの。畑で作ったものを地域のレストランで提供するなど、単に畑で作るだけでなく、地域に密着した活動を進めようとしている。

BC地区では、真ん中に三浦半島中央道路ができる予定であり、それを頭に置きながら、避けながら、私たち地元の活動団体と公募の団体が、一番は「楽しくやる」ということで活動している。

委員長： 非常に活発に活動されているというご説明をいただいた。ご質問等あれば。

委員： 2点ほど。素晴らしい活動をされていると思うが、1点は、アンケートにもあったが、BC地区は危険な地域もあるということで、BC地区のどの程度を活動エリアとしているのか。実態をお聞きしたい。

また、もう1点は、住民の方々やセンターとの連携はどのような形でされているのか。

オブザーバー： 活動エリアとして、BC地区の大楠山の周辺や前田川の源流域の辺りがある。大楠山の山頂周辺が保全地区なので、それ以外で活動しており、面積的には全体の3分の2程度で活動している。

活動に当たっては、地元を含めた県内と関わっている。混色・密植グループの活動主体は横浜にあり、その他にもホームページで発信している。協議会には地元の町内会が参加しており、活動内容を紹介している。また、イベントがある時は呼びかけを行っているが、たくさん参加されているとは言えないかもしれない。

委員長： 任意参加ということで参加していただき、実際に活動されている方からすると、もう少し参加していただけるとありがたい、というところのようだ。

委員： 今のお話を聞いて、BC地区の6割程度を活動エリアとされているので、逆に言うと、4割程度が立入禁止ということか。

事務局： 一般の方に対して、原則立入禁止としているため、大楠山に向かってアスファルト舗装されている横須賀市道以外は立ち入れない。植樹祭やオータムフェスタといったイベントに参加する時に、森に入って活動することができる。

委員： 解放されていないのは、実際に活動する時に誰かが見ていないといけなく、という理由からか。

事務局： ご指摘のとおり。せっかくの県有地で緑が広がっているので、うまく活用できないかと、これまでもご意見を頂戴しているところだが、今までは常駐する人間を置けないこともあり、安全管理上の問題から、現在の状態になっている。

委員： 住民の方々は任意で参加されているということで、村外の方々と同じような位置付けで参加していただいていると理解した。

センターとの連携は、特にないということか。センターがBC地区の活動をコーディネートして協働していくとか、宿泊された方が活動するためのコーディネートの役割をセンターが担うといったことは、現状ではしていないという理解でよいか。

オブザーバー： 我々の活動は、屋外だけでなくスキルアップとしてセミナー等を開催しており、その会場として、あるいは定期的な会合の会場としてセンターを無償で

使用させていただいており、大変ありがたい配慮をしてもらっている。

委員：植樹を続けていき、最終的に何を目的としているのか。様々な樹木を植えていくと、最終的に何になるのか。

オブザーバー：元々、このBC地区は、ゴルフ場として造成された場所なので、防災も兼ねて植樹しようというのが最初の目的。緑を増やすことによって自然が回復し、そこに生き物も住める、豊かな自然に帰るとのこと。

委員：計画的に植えて、どういう鳥が来るようにするかといった目的を考えながら進めているのか。地域に生息する動物がおり、鳥も獣もいると思うが、計画的に「この街にはどういう鳥が来るように」となると樹木の選択も絞られてくる。

オブザーバー：植樹に関しては、宮脇先生の主張である「潜在植生」ということで、元々ここにあった植物、自然発生的な生き物という考え方。アンケートに「珍しい魚がいる池」といった表現があったが、今、生物多様性だけでなく、外来種の問題がある。他から持ち込むものとして、外国から来るものだけが外来種ではなく、ここに無かったもの、他から持ってくるもの自体が外来種となるので、そうしたことはしないという考え。元々ここにあった自然を回復するということで取り組んでいる。一つのよい例として、子安などこの辺りには茅葺きの家がたくさんあった。近くにススキなどカヤが広がっている場所があるが、放っておくとあまり綺麗ではないので、これから秋口になると、自然ふれあい楽校が手入れしてカヤを作って、そのカヤを利用できる茅葺きの家を探して持っていくなど、販路を探しながら活動している。それも、元々この辺りがそうした自然であったのを再生しようというものであり、他から別のものを持ってこようということではない。

委員：森に戻すというだけなのか、ハイキングコースとして整備するのかなど、ここに成果を求めるのか。

オブザーバー：現在、BC地区の活動の所管を地域政策課にお願いしているが、今後、神奈川県として考えた時、この自然をどう持っていくのがよいかを考えていくために、自然環境を担当する部署である環境農政局に関わっていただきたいという要望を、今回の活性化に合わせて、先日、県にさせていただいた。

委員：会長は水をはじめ環境全般にご活躍されており、敬服しているが、先行してこのような形でBC地区において活動をされている中で、スポーツ施設や教育関連など、BC地区の活用に関する住民の方々の様々なご意見もある。我々はそうしたご意見も総合して活性化に向けた基本計画にまとめていくのだと思うが、率直に会長のご意見を伺いたい。

オブザーバー：私というより、一緒に活動する仲間たちの意見だが、せつかくある自然なので、都市公園的なものにするより、自然公園的なものに持っていきたいと考えている。それに当たり、地区の真ん中に三浦半島中央道路ができるという要素があるので、そこの共生を考えないといけない。それによって変わってくる。道路計画が先延ばしになっており、正確にどこを通るか未定でもある。方

向的には、自然の森を作っていきたい、保全していきたい。そこを体験学習的に利用したいと考えている。

また、現在、誰でも通れる道が大楠山まで続いているので、大楠山への入口がここにあるということでもう少し活性化できれば、と思う。

委員長： 会長は、今回限りの出席か。

事務局： よろしければ、継続的にオブザーバーとしてご参加いただければ。

委員長： 住民の皆様のアンケートと同じように、BC地区についても具体化の姿が見えた時点で、またオブザーバーとして参加していただくことも考えていきたいと思う。ぜひよろしくお願ひしたい。

### 議題3「湘南国際村改訂基本計画（骨子案）について」

委員： 先ほどのアンケート結果で、住民の皆様が色々悩まれている、苦労していらっしゃるというところがあった。それを解決していくために、交流人口を増やして民間投資を促進し、サービス提供や生活環境の向上につなげるというのは非常に重要なキーワードだと考えている。その中で、16ページの「3 新たな展開」の（1）イに「県・横須賀市・葉山町の政策との連携強化」が非常に重要であると私達も考えている。それぞれが違ったスタンスで事業を進めるのではなく、いかに連携していくかが重要だと思うが、ここでは「未病改善などの取組み」だけしか具体例が出ていないので、今後我々もきちんと具体例を挙げて、何を連携していくのかを明らかにしていった方がよいと思う。この文言はこれでよいと思うが、ぜひ三者で協議をする機会を設けていただければと考えている。

併せて、16ページの「（2）強化する機能」に「ウ 回遊性の向上」とあるが、交流人口の増加ということでこの文言が出てきていると思う。これを強化する機能とした時に、3ページの横須賀市の地区計画の中で、このエリアに「研修・研究施設地区」「研修施設地区」「生活支援施設地区」「住宅地区」「公共公益施設地区」といった形で位置付けており、今後、地区計画を変えていかなければならないだろうと考えている。その時にどう反映するか、宿泊的な要素を持たせるのであれば、研修だけではなくゲートウェイとなり得る、宿泊が可能となるような地区計画に変更していくのかどうかという点もある程度方向性を見据えていかないといけない。基本計画が改訂できて、横須賀市と葉山町が地区計画を変えていかなければならない時に、逆戻りしたり、先走ってもいけないので、どういうイメージなのか教えていただきたい。

事務局： 今回、基本計画ということでご議論いただいているが、基本計画を改訂するにしても、実際に何をするかとなると、現場に近い市町の施策との整合性が非常に重要になってくる。裏を返せば、それが無いままに基本計画の理念だけを変えても、地に足のつかないものになってしまう。「未病改善だけが記載されている」という話もあったが、まず我々神奈川県の方針であり、これまでの柱立てにも出ていた「未病改善」を掲げさせていただいた。現在は「骨子案」と

ということで、非常に短い形でまとめているので、横須賀市、葉山町から「この政策を」という話をいただければ、今後「素案」に進めて膨らませていく段階で、当然盛り込んでいきたい。そうすることで、地域の皆様、県民の皆様から見て分かりやすい基本計画になれば、と考えている。それも含めて、これからますます横須賀市、葉山町と県で十分協議を重ねながら、地区計画も考えながら議論していきたい。

そうした中で、現行の計画でも土地利用の区分として色塗りがされているが、どういったものが相応しいのかも併せて、現在の施策と、土地利用を含めて協議していきたい。

委員長： 次の素案の段階では、書き込みがあるという理解でよいか。

事務局： 今回も、これまで出た具体例を掲げることが検討したが、まずは骨子ということで、素案の段階で書くことを検討したいと考えている。あまり抽象的なものだけでは分かりにくいのでは、という思いもあるので、そうしたご意見もいただきながら検討したい。

委員長： 横須賀市、葉山町と事前に調整しながら、どこまで書き込めば動きやすいか検討していただきたい。

委員： （持参した資料を配布し）今、お配りしているのは、私が考えている交通手段の改善ということで、今、お話しいただいているのが中長期的な話なので、住民代表としては目の前の改善があればと思い、まとめたもの。

1つ目の「バスの重複している発車時刻をダイヤ改正して均等化し利便性を向上する」について。病院があっても、足の便がないから不安になり、不満になる。現在は運転できるので特段問題ないが、10年後、20年後の自分を考えた時、車が運転できなくなると、生活できなくなるということ。住民の考える活性化とは、交流人口も大事だが、人口の増大、村民の増大。でも住宅地は決まっているので、一世帯当たりの住民を増やすこと。アンケートにあるとおり、一けたや、10歳代から30歳代と、若い方の人数が極めて少ない。働く世代、学生世代が少ない。こうした方が増えるような環境にすれば、エリアとしても、A地区としても活性化が図られてきたと言えるのではないかな。そのためには交通の便が重要。

現在、湘南国際村がどういう状況かという、主な方向として逗子に向かう方が6割程度だったが、逗子方面には2路線、4系統がある。逗子営業所が管轄している16系統、26系統と、佐島の丘と逗子を結ぶ急行直行便が2系統になる。また、ファミリーマートの前の「間門沢調整池」というバス停の時刻表と、逗子駅からこちらに向かう時刻表を用意した。平日をご覧いただくと、日中は一時間に一本というところがある。印字されているのが逗子営業所で組んでいるダイヤで、逗子駅と湘南国際村を結ぶ路線であり、手書きが、佐島のなぎさの丘と逗子駅を結んでいる直行急行便になる。このうち、色塗りしているのが、10分以内に同じところで発着しているもの。朝晩でも少ない割に、重複している。例えば、平日にファミリーマート前から13時52分に逗子駅行



が出た後、その3分後に直行急行便が来る。最終便を見ると、22時52分の逗子駅行の3分後に、直行急行便が来る。非常に使いづらいダイヤになっている。聞いてみたところ、ダイヤを作成している担当が違うので重複してしまうようだ。これを調整するには、佐島のなぎさの丘にも住民がいるので、そこは変えずに、逗子営業所だけ変えることで、この2系統がなるべく均等に来てもらえれば。本数を増やすのは、企業の経営の問題なのでなかなか立ちいかないと思うが、こうした工夫はできるのではないかと考えている。

続いて2番目の「自動運転車車両の導入」について。自動運転は一部で実証実験がされているので、そう遠くないと思う。村の山のふもとの県道27号線から逗子に行くバスのダイヤと、逆に海岸の方に下りた、秋谷の時刻表をお配りした。海岸通りは便数が非常に多いので、この2か所を自動運転で結ぶことができれば、山から下りることができれば、足の便が非常によくなると思う。

また、3番目の「最終便の延刻」について。先日まで都内に勤めていたが、営業時間が9時までであり、会社を出るのが9時半。電車ではほぼ1時間かかると、平日はよいかもしれないが、土日は通勤できないという状況だった。最終バスを、勤労者や学生が利用できる時間帯にさせていただきたいと思う。

こうしたところが改善されれば、住民としては、かなり安心できると思う。

それから、回遊性やBC地区の話があり、三浦半島中央道路が遅れているが、集客しても海岸通りは非常に混雑しているため、中央道路ができると回遊性、利便性が高まるし、横須賀市のコンパクトシティや津波のことを考えると、134号線は非常に心配。湘南国際村からの道路ができれば、防災の力も高まるので、そうした面からも望ましいと自治会の連合会長の発言もあった。県としても、そちらを推進していただくようお願いしたい。

委員 長： 事務局に確認だが、1番と3番について具体的にアプローチするとして、どなたにどういう形で持ちかけるのがよいか、検討していただけないか。

また、自治会では、1番と3番を京浜急行に持ちかけているのか。

委員： 自治会として、逗子営業所に持ちかけようと考えている。

委員 長： 行政側として、どこがサポートする形で話をするのか、自治会の方が自ら動くとしたら、どのようなアプローチがよいのかを含めて、事務局にご検討いただくということをお願いできればと思う。

また、2番目については、具体化するためにはどこかの企業が提案して、JST（科学技術振興機構）などの試行的な施策として行う仕組みがあるので、どのように進めるかという話になると思う。私と事務局で相談させていただきながら、具体化するならどうなるか、という話をさせていただくことでよいか。では、そのようにしたい。これと同じような話がつくば市であり、トヨタ自動車がソフトバンクなどと取り組んでいる例がある。

委員： アンケートでも質問したが、住民参加型に関する能動的なご意見、ボランティアのスタッフの話があった。村内の交流が促進されていないようでもあるので、これから重要になってくるのは、住民の方々や既存機関だと思う。既に20年以上いらっしゃる例も多いので、この地域に相当思い入れがあり、十分な情報共有ができていると思うが、そのあたりの交流がなかったことが、もしかすると湘南国際村のエネルギーに影響しているのではないかと感じている。もっと村内の交流強化が必要なのではないかと思う。住民の方々の中には海外の経験が長い方も多いということなので、国際会議がセンターで開かれた時に、運営スタッフのボランティアとして働くことで、知的レベルの高い研究者の方々と接する機会を求めていらっしゃるかもしれない。そうしたことが日常的にあり、それぞれの機関がWIN-WINになるような交流の場、話し合える場があるように、村内の交流を強化することが、村全体の国際交流機能の強化につながるかもしれない。中に散りばめられているかもしれないが、外部との交流強化だけでなく、内部の交流強化もポイントとして入れておいた方が、今後においてはよいのではないか。

委員長： 前回、住民の方々の自発的な活動を促すというご意見があったが、今の内容が、全体にわたって書かれることも必要かと思うので、素案の段階で散りばめていただければ。

委員： 新しい基本計画を見たが、民間であれば、具体案を期日に落とし込み、予算を組む。それで商売に見合うか否か。商売に見合わないから撤退したわけだから、見合うようにする方法をどうするか。そこから考えないと、また絵に描いた餅で終わってしまう気がする。

このエリアは非常に恵まれていると思っている。せっかく恵まれているが、何で駄目なのかと考えたら、最終的にハードの問題ではなくソフトの問題だと思う。住民がどういうことを要求していて、何をしたらいくら払ってくれるのかということを考えて、県や市町に頼らなくても、具体的に経済が成り立つ村づくりをしないと、難しいのではないか。都市計画を見直すということで、またハードの話になり、何か作ったらどうなるのか。そもそもここに建物ができているのに、経済が成り立たない。それをどう改善するのかを落とし込まないと、継続性として無理だと思う。例えば、18年に改訂した基本計画があるが、この裏側についている具体的な実践策と、予算案と、期日。そのうち実行できたものと、できていないものを一回精査しないと、またせっかく作ったのに同じことを繰り返すように見えてしまう。基本計画ができあがった後、誰がどのように行動して、それが成功したのか、失敗したのか。そうした検証のようなものが見てみたい。方向性を決めて動いたが、結果としてできなかったのかどうか。できなかった理由は何か。できているものは、その理由は何か。こんな立派な建物があって、我々民間から見たら、うらやましい限り。お金をかけて、こんなに綺麗で。それが活用されていない理由は、住民のアンケートと

我々の意見で合致しているが、それをどのように落とし込むのか明確にしないと、18年に行ったのと同じになる。私は、委員として参加したので、成果を出さないと恰好が悪い。成果を出してほしい。そのために何をするのか、落とし込まないと、意味がないのではないかと。私も三浦で独自に取り組んでいるが、誰も助けてくれない。これだけコストかけてやっている所を、うまくやれないわけがない。18年の時の反省を見てみたい。そうすれば、答えは全部出る。ソフトだ。ハードの整備だけではない。

事務局： 今までの振り返りをしないと、同じことが繰り返されてしまうのではないかと、というお話だと思う。今までもそうしたご意見をいただいていたところで、それがないと、これから新しいものを出そうとしても、なかなか説得力がないものとなってしまう。次の委員会で整理してお示ししたい。今回の骨子案では、これまでの経緯や18年の改訂後の歩みを記載している。費用対効果が示しにくい部分もあるかもしれないが、可能などころで整理して、どういったところがよかったのか、悪かったのか、お示ししたい。

事務局： 湘南国際村センターを運営している株式会社湘南国際村協会は、県が出資している第三セクターだが、現在、経営改善に向けた見直しを進めているところ。その中で、このセンターをどのように活用していくかについて、県としても協会と一緒に検討している。今回、委員の皆様、住民の皆様から非常によいアイデアをいただいたので、こうしたものを具体的にどのように活用していけるか。その中には建物の用途の規制に関する部分もあり、都市計画に委ねる面もあるが、現状でも可能なものもあるので、いち早く取り入れていくように検討しているところ。次回、どういう形で出せるかどうか、事務局で整理したいが、そうした状況にあることをご承知いただければと思う。

委員： おそらく、その部分の考え方を変えないと。経営者で会社は変わってくる。プールを使わせてほしいという時、断るのでなく、やれる方法を考えるのが普通の会社。しかし、やれる方法を考えないで、そのまま放置されている現状から見たら、経営母体を見直さないと駄目だと思う。それが、第三セクターがいつも失敗する理由。活性化に向けて改善した方がよい。

また、国際会議場を使って色々取り組んでいるが、バスの便を考えると、乗り切れない。一度に集まって会議をしても、一度に帰れない。そうになると、違うサービスを考えないといけない。そうしたことに、もっと前から取り組んでいないとおかしいと思うし、バスの本数を増やすのは経済的に難しいと思う。そうであれば、格安のハイヤーなどを整備すれば、呼べば来る形にできる。私も、お酒を飲みに行くとき、自分で運転できないから運転手をお願いする。運転手がいれば、会員制にすれば難しいサービスではない。そうして考えれば、ここでは取り組めるサービスがまだまだたくさんある。求めているものと不一致になるからお客様が来なくなって、売上が下がり、事業ができなくなる。そこのすり合わせをして、ここにお客様がいて、外からも呼び込む時、また同じことをやっても無理。そこを本気で考えないと、また同じことになると思うので、具体的に落とし込みたい。

委員長： 次回、そうした資料をご提示いただく、あるいは、場合によっては回収でも構わないので、具体策も見えて、そうした議論ができるように踏み込んだものがあれば、疑問が晴れたり、改善策が提案できたりすると思うので、よろしくお願ひしたい。

委員： 資料3に骨子案の目次が示されている。第2章で終わるのか、第3章として基本計画を編集するのか、まずお聞きしたい。

事務局： 章立ての仕方は別として、現在は「改訂の方向」を掲げているが、現行の基本計画では、この後に土地の利用計画という部分があるので、土地の利用の仕方を何らかで整理してお示ししたい。

委員： 第2章の第2節に「4 基本計画の改訂の方向」と書いてあるので、これは基本計画ではないと認識している。基本計画は第2章の第3節にくるのか、第3章にくるのか、そのようなイメージを持っているが、それでよろしいということで、承知した。それを前提に、いくつか意見を申し上げたい。

まず、目次の第1章の第2節として「湘南国際村をとりまく状況」をまとめており、最初に経緯が記載されている。先ほど委員から話のあった内容は、この経緯を考えた時、この施策がどのような結果になったのか、検証が必要だということ。もしその検証の結果をこのレポートの中に入れるとしたら、この経緯の後にくるのではないか。

さらに、「2 湘南国際村の現状」ということで書かれているが、本日の資料1でアンケートの結果が非常に詳細に記述されている。おそらく、村民の方々がどのように今考えておられるのかについて、村の現状の中に整理しておくのだと思う。

ページをめくっていくと、6ページまでに現状がまとめられているので、6ページの後半にアンケート結果が示されるのだと思う。それを踏まえて、7ページ以降に「湘南国際村の課題」が書かれている。その課題の定義は難しいが、この書き方でいえば、現状の問題をまとめている。それはそれでよいと思う。交通、商業施設、医療機関、高齢化、情報発信からBC地区までまとめてあるが、この問題点をどうとらえているか考えた時、2つあると思う。

一つは、A地区、BC地区を面的にとらえた時、「A地区にはこうした問題点がある」「BC地区にはこうした問題点がある」という整理の仕方もある。もう一つの切り口は、生活環境の向上という切り口と、交流人口の増加という観点での切り口での整理もある。問題点、課題を2つの切り口で整理すると、後で方針をまとめる時に重要な切り口をここで示すことになるので、ご検討いただいた方がよいのではないかとと思う。

そして、本論が13ページ以降であり、第2章では「新たな展開の考え方」ということで基本方針が示され、ここで「A地区はこうしていく」「BC地区はこうしていく」という地区の方針が記載されているが、突然こう書かれると、何となく違和感がある。前の課題のところで「A地区ではこういう問題

点がある」「BC地区ではこうだ」ということを、機能を含めて整理するのが分かりやすいのでは。

さらに、15 ページに「新たな展開に必要な機能」ということで、現状はA地区、BC地区がそれぞれ整理されている。これは現状の機能として、こうした機能があると記載されている。13、14 ページの方針を踏まえると、「今の機能に比べてどういう機能を追加しないといけないのか」を整理したのが 16、17 ページであると認識している。そこまでは共通理解だと思う。

お聞きしたいのは、16 ページに「新たな展開」と書いてあり、(1) が「機能強化の視点」、(2) が「強化する機能」とある。(2) は分かるが、(1) の「ア」「イ」「ウ」が、どういう意図で書いてあるのか、理解が難しい。私の認識では、アの「三浦半島全体の活性化」として、「魅力を向上して、交流人口を増加させ、生活環境の向上も両立させていくのだ」という考え方、これそのものは「基本的な考え方」なのではないかと思う。13 ページの「1」に設けないといけないのでは、移行した方がよいのではないかと思っている。確信があるわけではないが。

その後の「イ 県・横須賀市・葉山町の政策との連携強化」は、政策連携をしていく必要があるということ、「ウ 湘南国際村センターの更なる活用」はこのセンターそのものの更なる活用、機能強化をしていかないといけない、ということが書かれている。これは、ある意味では実施主体の話。「誰がやるのか」ということ。これは非常に重要な点。「誰がやるのか」を考えた時、「どんなことをするのか」が(2)の「強化する機能」であり、今求められている「ア 国際交流拠点としての一層の機能強化」から「エ 情報発信の強化・湘南国際村ブランドの維持向上」がある。これらが、交流人口の増加に寄与するものなのか、それとも生活環境の向上に寄与するのか、あるいは両方なのか。これは難しい判断なので、なかなかそうした切り口では整理できないだろうと思うが、先ほどのA地区、BC地区との関連がどうなっているかということは、この段階でも整理していく必要があるのでは。

そうしていくと、A地区の中でどうしていったらよいか、BC地区でどうしていくかが見えてきて、「交流人口の増加に、これが寄与する」「生活環境の向上に寄与する」ということが見えてくるのでは。

そうした中で、「主体は誰か」といった時に、政策連携は非常に重要だと思うし、このセンターが取り組むべきことは何なのかを整理するのは、極めて重要である。その先にあるのが、「センターの機能をここまで充実させなければいけない」「今の主体は第三セクターであり、別途検討している」ということだが、この検討委員会でそれをどこまでオーソライズするのか、基本方針だけでよいのか。この委員会でのとりまとめ、最終的なアウトプットをどこまでにするのかについては、以前も議論になった。極端な話、第三セクターの体制はどうあるべきで、こんなことをやらないといけない、という議論もあるし、先ほど話があったように、もっとソフトを具体的にどうやっていくかということ、この委員会でまとめるのか。また別の場所でまとめるのか。この委員会

はあと3回程度なので、非常に難しいと思う。

委員長： 整理が必要だ、ということだと思う。混乱するので整理していただくのと、重要なのは、主体。誰がやるのか。この後ろには、行政と住民の間をつなぐ企業、民間活力があるのだと思うが、そこまでどう踏み込んでいくのか。どう引き渡していくのかを見せないと、分からなくなるというご意見だと思う。誰がどこまでやるのか、その先は誰がやるのかという整理について、ご検討いただきたい。

今のご意見で重要なのは、この委員会でどこまでやるか、アウトプットをどこで終わりにするのか。それだけでなく、その先、何があるのかまで見せていかないと、このアウトプットが信用できなくなるという議論もあったと思う。

#### **議題4「今後のスケジュールについて」**

委員長： 各委員に、早めにスケジュールの確認をしていただき、できるだけ多くの委員が出席できるように調整をお願いしたい。

以上をもって、本検討委員会の議案は終了し、委員長は閉会宣言を行った。